

人権学習を終わって～結婚差別について考えました

3年生の3学期の人権学習は、先週・先々週と2時間かけて「結婚差別」について学習しました。被差別部落の青年と出会い、恋愛し、結婚することに決めた娘さんに対して、いろんな理由を並べて反対する両親……。こんな構図は、現代の日本においても、(残念ですが)まだまだ散見される事象です。資料は実話をもとにつくられています。実際にも資料にあるような(以下のような)ことを言われたのでしょうか。

- ①「部落の人間と結婚して、あなたまで差別されたらどうするんだ？」
- ②「世間から私たち(=親や姉妹)まで差別されたらどうするんだ？」
- ③「他にもいい人がいっぱいいるのに、どうして部落の人と結婚するの？」
- ④「結婚は2人だけの問題じゃないのよ。」

これらの言葉に対して、授業でみんなから出た意見(自分ならどう反論する?)をいくつか紹介します。

- ①に対して
 - 部落の人と結婚するからには、それくらいの覚悟はある。本当に心配なのは私じゃんくて、自分たちに世間からくる風当りで、それがこわいんだよ。
 - 差別に負けるほど弱くない。
 - 差別するほうがおかしいから、気にしないようにする。
 - そうであったとしても、この人がいいと思ったんです。
- ②に対して
 - 家族で支え合って頑張ろうよ。
 - そうやって差別されたくないと思う人が差別しているんだよ。
 - 全員で力を合わせて乗り越えていこう。何事にも前向きに考えよう。
 - されるかされないかで悩むなら、今日の前にある問題について悩んだらどうですか。
- ③に対して
 - あなたが思う「いい人」は、私の思う「いい人」ではないかもしれませんよ。
 - 私がいいと思った彼が、たまたま部落の人ただだけ。結婚したいって思っているの。
 - その人のことが好きだから。部落の人たちと私たちが人として違うところなんてない。
 - 親から見たらいっぱいいるかもしれないけど、自分から見たらこの人が一番いいんだから。
- ④に対して
 - だから、その問題を解決するために今、話し合っているんだよ。
 - ↓ ●2人だけの問題じゃないのは認めるけど、2人が中心の問題なのに、何でこっちに決定権がないの？いつまで親の言いなりになる必要があるの？
 - ↓ ●2人だけの問題じゃないなら親も積極的に話し合いをしてほしい。
 - ↓ ●主役は私たち2人です。



(公民の授業でやったように)「婚姻は両性の合意のみによって成立」するからと言って、すぐに「縁を切る」とか言わないで、「家出」や「駆け落ち」に走らないで、周りを粘り強く説得してくださいね(そういう意見がけっこう多くてひと安心)。

ほんの一部をざっと紹介しましたが、ほとんど全ての意見が差別に怯まない・負けたくないものでした。こういう若者が増えていけば、少しずつでも、部落差別(に限らず多くの差別)はなくなっていくはずですよ。大事なのは、「部落の人」特別な人ではなく、元々部落外の人とまったく同じ人で、その昔、政治権力を持つ者が自分たちの都合のいいように住んでる地域で区別しただけのこと、という認識をぶれずに持つことです。(もちろん、若者だけでなく、年長者も！)

人権学習全体の感想文でも、みんなしっかりしたことを書いていて、心強く思いました。あとは「言行一致」、思っていること・書いていることを行動にうつすだけ。差別されている人がいたら手をさしのべ、1人で差別に立ち向かえないときは誰かの力を借りればよい、そうして仲間と共に支え合いながら、差別を乗り越えていきましょう。

「今、世の中でおきている差別の数々は、決して他人ごとではない」

